



思いやりの、その先へ

先週（10月19日からの週）は、「いのち・いじめについて考える週間」でした。この機会に、友達とのかかわり方や、相手の気持ちを考えることについて、改めて考えてみたいと思います。

みなさんは、「シンパシー」と「エンパシー」という言葉をご存じでしょうか。

「シンパシー（sympathy）」は、相手を気の毒に思ったり、心配したり、力になりたいと感じたりすることです。一方、「エンパシー（empathy）」は、相手の立場に立って、その人がどのように感じ、何を考えているのかを想像し、理解しようとすることです。どちらも、人と人とかかわるうえで大切なものです。

私たちは、友達が困っていたり、悲しんでいたりする姿を見ると、「かわいそうだな」「何とかしてあげたいな」と思うことがあります。こうした相手を思いやる気持ちは、とても大切です。しかし、相手のことを心配しているつもりでも、自分の考えだけで相手の気持ちを決めつけてしまうことはないでしょうか。

例えば、休み時間に一人でいる友達を見て、「一緒に遊ぼう」と誘う。元気のない友達に、「元気を出して」と声をかける。どちらも、相手を思っている行動です。でも、一人でいる友達は、静かに過ごしたいのかもしれません。元気のない友達は、励ましてほしいのではなく、ただ話を聴いてほしいのかもしれません。よかれと思ってしたことが、相手にとってはかえって困る「ありがた迷惑」になることもあります。

だからこそ、「この人は今、どんな気持ちなのだろう」「何をしてもらいたいと思っているのだろう」と、相手の立場から考えることが大切です。「何かあったの？」「話を聴こうか」「何か手伝おうか」と尋ねることも、そっと見守ることも、相手を大切にしている行動です。

日本では、相手を思いやり、周囲との調和を大切にすることが重んじられてきました。その一方で、相手の気持ちを察したつもりになり、自分の考えや価値観を基準に判断してしまうこともあります。日本人のエンパシーが弱いと一概に言い切ることはできませんが、相手を思う気持ちと、相手の立場から理解しようとすることは、必ずしも同じではないという点は、私たちが心に留めておきたいことです。

（※裏面に続く）

シンパシー （相手を思いやる気持ち）

かわいそうだな…
元気を出してほしいな…



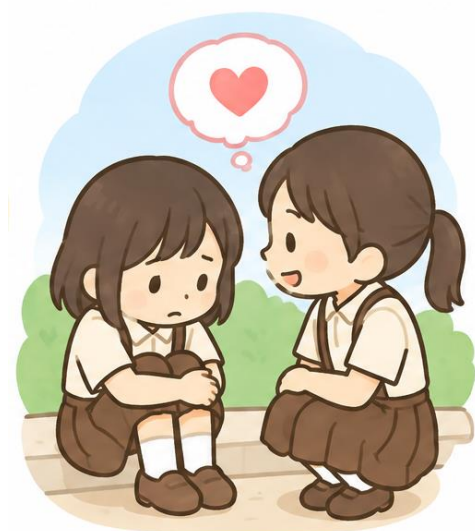
相手を気の毒に思ったり、
心配したりすること。

エンパシー （相手の立場に立って考える気持ち）

一生懸命がんばってきたから
悔しいのだろうな…
今はそっとしておいてほしいのかも…



相手の立場に立って、その人が
どのように感じ、何を考えているのかを
想像し、理解しようとする。



(※表面より)

いじめについて考えるときにも、このことは大切です。自分にとっては何気ない言葉や冗談でも、相手は深く傷ついているかもしれません。「これくらい大丈夫」「みんなも笑っているから」と自分の感覚だけで判断するのではなく、相手がどう感じているのかを考えることが必要です。また、友達が嫌な思いをしていることに気づいたときには、見て見ぬふりをせず、声をかけたり、先生や周りの大人に相談したりすることも大切です。

もちろん、相手の気持ちを完全に理解することは簡単ではありません。自分とは感じ方も考え方も違うからです。それでも、「この人には、この人なりの思いがあるのかもしれない」と考え、分かろうと努めることはできます。すぐには理解できなくても、相手の話に耳を傾け、自分とは違う思いや考えを認めようとする。その積み重ねが、互いを大切にする関係につながっていきます。そして、これは子どもたちだけに求めることではありません。私たち大人も、子どものために思っかけた言葉や行動が、本当にその子の思いに寄り添ったものになっているか、振り返ってみたいものです。

「いのち・いじめについて考える週間」を、相手を思いやる気持ちとともに、相手の立場から考えることの大切さを見つめ直す機会にしたいと思います。本校でも、一人一人が相手の思いに心を寄せ、互いの違いを認め合い、困っている友達に気づいたときには支え合える、そんな豊かなつながりを育んでいきたいと思います。



一人一人の思いを大切に、豊かなつながりを育んでいきましょう。

のだっこ Diary

★子どもたちの学校生活のようすは、本校ホームページでも紹介しています。
随時更新していますので、ぜひご覧ください。

【社会見学（5年生：大阪市中央卸売市場）】9月17日（木）

校区内にある大阪市中央卸売市場本場へ社会見学に出かけました。青果や鮮魚の取引場所を見学し、実際に競りをする場所では、その方法も教えていただきました。また、市場には「食の安全を守る」「食品を安定して供給する」「食品の値段を決める」という大切な役割があることを学びました。子どもたちは、普段お店で目にする魚や野菜が市場に集まり、多くの人の仕事によって届けられることを知り、私たちの食生活と市場のつながりについて理解を深めました。身近な地域にある市場の役割を実感する貴重な機会となりました。市場の皆さま、ありがとうございました。



※「校長室だより」カラー版は、本校ホームページ「配布文書」にアップしています。